医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１

医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、人体に取り込まれて作用し、効果を発現するものであり、人体に対して使用されないものはない。

ｂ　医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものであり、そうした情報を伴わなければ、単なる薬物（有効成分を含有する化学物質）に過ぎない。

ｃ　一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクが相対的に高いと考えられている。

ｄ　医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

１（ａ、ｃ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問２

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。

ｂ　医薬品の投与量が治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。

ｃ　製造販売後の調査及び試験の実施の基準としてGood Post-marketing Study Practice（ＧＰＳＰ）と製造販売後安全管理の基準として Good Vigilance Practice（ＧＶＰ）が制定されている。

ｄ　医薬品は、少量の投与であれば発がん作用や胎児毒性、組織・臓器の機能不全を生じることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問３

セルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　持続可能な医療保険制度の構築に向け、医療費の増加やその国民の負担増大を解決し、健康寿命を延ばすことが日本の大きな課題であり、セルフメディケーションの推進は、その課題を解決する重要な活動のひとつである。

ｂ　セルフメディケーションを的確に推進するためにも、登録販売者は、薬剤師や医師、看護師など地域医療を支える医療スタッフあるいは行政などとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進、生活の質（ＱＯＬ）の改善・向上などに携わることが望まれる。

ｃ　少子高齢化の進む社会では、自分、家族、近隣住民、専門家、行政など全ての人たちで協力して個々の住民の健康を維持・増進していくことが求められ、登録販売者は、その中でも重要な情報提供者であり、薬物療法の指導者となることを常に意識して活動することが求められる。

ｄ　適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、全てのＯＴＣ医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	正
４	誤	正	正	正
５	正	正	正	正

問４

高齢者の医薬品の使用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

２　医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、その場合、誤嚥（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなるので注意が必要である。

３　医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族や周囲の人の理解や協力といった配慮が重要である。

４　基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が小さいため、年齢から副作用を生じるリスクがどの程度増大しているかを判断することは容易である。

問５

いわゆる「健康食品」と呼ばれる健康の増進や維持の助けになることが期待される食品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　あくまで食品であり、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることはない。
ｂ　「保健機能食品」は、一定の基準のもと健康増進の効果等を表示することができる。
ｃ　「栄養機能食品」は、食生活において栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的として摂取する者に対し、その栄養成分の機能を表示する食品であり、個別の許可申請を行う必要はなく、自己認証で表示することができる。
ｄ　「機能性表示食品」は、科学的根拠をもとに疾患に罹（り）患していない者の健康の維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国の審査を受け、許可されたものである。

１（ａ、ｃ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問６

一般用医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　指示どおりの使用量であれば、長期連用しても、医薬品を代謝する器官を傷めることはない。
ｂ　便秘薬や解熱鎮痛薬などはその時の不快な症状を抑えるための医薬品であり、長期連用すれば、重篤な疾患の発見が遅れる可能性がある。
ｃ　医薬品の乱用により、一度、薬物依存が形成されても、そこから離脱することは容易である。
ｄ　長期連用により、精神的な依存が起こり、使用量が増え、購入するための経済的な負担が大きくなる例も見られる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問７

医薬品の副作用に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の（　a　）、診断、治療のため、又は身体の機能を（　b　）ために、人に（　c　）量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

	a	b	c
1	検査	向上させる	通常用いられる
2	検査	向上させる	用いられる最大
3	検査	正常化する	通常用いられる
4	予防	正常化する	用いられる最大
5	予防	正常化する	通常用いられる

問８

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　副作用は、眠気等の比較的よく見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々であるが、どのような副作用であれ、起きないことが望ましい。

b　一般用医薬品の使用においては、通常、重大な副作用を回避することよりも、使用を継続することが優先される。

c　副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、明確な自覚症状として現れないこともある。

d　登録販売者は、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行うほか、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問９

アレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　アレルギーには、体質的・遺伝的な要素はない。
ｂ　外用薬によって、アレルギーが引き起こされることはない。
ｃ　カゼインは、アレルギーを引き起こすことのない添加物である。
ｄ　普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、思わぬアレルギーを生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 10

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の相互作用は、医薬品が吸収、分布又は代謝される過程で起こることはあるが、排泄（せつ）される過程で起こることはない。
ｂ　相互作用による副作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
ｃ　アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、医薬品の代謝に影響を与えることがある。
ｄ　食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があるが、医薬品とそうした食品を合わせて摂取しても過剰摂取となることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問11

妊婦又は妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）の医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の中には、配合成分やその用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

b　医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。

c　ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。

d　登録販売者は、妊婦から体の変調や不調に対して一般用医薬品を使用することにより症状を緩和したいという相談があった場合、胎児に影響を及ぼすことがないよう配慮する必要があり、そもそも一般用医薬品による対処が適当かどうかを含めて慎重に考慮すべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問12

小児への医薬品の使用等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成２９年６月８日付け薬生安発０６０８第１号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）においては、おおよその目安として、「１歳以上、７歳未満」を「小児」としている。

b　医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため小児に対して使用しないことなどの注意を促している場合もある。

c　乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であれば、医師の診療を受けることよりも、一般用医薬品による対処を優先することが望ましい。

d　小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

１（a、c）　２（b、c）　３（b、d）　４（a、d）

問 13

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
b　プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）だけである。
c　主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。
d　医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）だけが関与して生じる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 14

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　配合成分には、高温や多湿、光等によって品質の劣化を起こしやすいものが多く、適切な保管・陳列がなされなければ、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
b　適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
c　品質が承認等された基準に適合しない医薬品や、全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は、販売が禁止されている。
d　一般用医薬品は、薬局等において購入された後、すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売がなされることも重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問15

次のうち、一般用医薬品の役割として正しいものの組み合わせはどれか。

a　健康状態の自己検査
b　生活習慣病の治療
c　生活の質（ＱＯＬ）の改善・向上
d　重篤な疾病に伴う症状の改善

１（a、b）　２（a、c）　３（b、d）　４（c、d）

問16

販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　生活者のセルフメディケーションに対して、登録販売者は、第２類医薬品及び第３類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
b　登録販売者においては、購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。
c　登録販売者からの情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているか等の実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まるものである。
d　購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することも重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　日本では解熱鎮痛成分として承認され、一般用医薬品として販売されていた。

b　妊婦又は妊娠していると思われる女性が摂取した場合、血液脳関門を通過して胎児に移行する。

c　サリドマイドの催奇形性について、１９６１年１２月に西ドイツ企業から日本に勧告が届き、日本では同月中に販売停止及び回収措置が行われた。

d　サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関（WHO）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問18

クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）及びＣＪＤ訴訟に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）内には同じ字句が入る。

ＣＪＤ訴訟は、脳外科手術等に用いられていた（　a　）を介してＣＪＤに罹(り)患したことに対する損害賠償訴訟である。ＣＪＤは、（　b　）の一種である（　c　）が原因とされ、（　c　）が脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

	a	b	c
1	ウシ乾燥硬膜	タンパク質	プリオン
2	ウシ乾燥硬膜	ウイルス	フィブリン
3	ヒト乾燥硬膜	細菌	プリオン
4	ヒト乾燥硬膜	ウイルス	フィブリン
5	ヒト乾燥硬膜	タンパク質	プリオン

問19

ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）及びＨＩＶ訴訟に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　ＨＩＶ訴訟は、血友病患者が、ＨＩＶが混入した原料血漿（しょう）から製造された免疫グロブリンの投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

ｂ　ＨＩＶ訴訟を踏まえ、国は、ＨＩＶ感染者に対する恒久対策として、エイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。

ｃ　ＨＩＶ訴訟を踏まえ、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られるとともに、薬事行政組織の再編、情報公開の推進、健康危機管理体制の確立等がなされた。

ｄ　ＨＩＶ訴訟を契機として、１９８０年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問20

亜急性脊髄視神経症（スモン）及びスモン訴訟並びにＣ型肝炎訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　スモン訴訟は、催眠鎮静剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、スモンに罹（り）患したことに対する損害賠償訴訟である。

２　スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺（しび）れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺（ひ）は上半身にも拡がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。

３　Ｃ型肝炎訴訟は、出産や手術の際に特定のフィブリノゲン製剤や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、Ｃ型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

４　Ｃ型肝炎ウイルス感染者の早期・一律救済の要請にこたえるべく、２００８年１月に議員立法による特別措置法が制定、施行され、国では、この法律に基づく給付金の支給の仕組みに沿って、現在、和解を進めている。

主な医薬品とその作用

問21

第１欄の記述は、かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰（たん）を伴う咳（せき）や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘（ぜん）息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第２欄

１　葛根湯（かっこんとう）
２　麻黄湯（まおうとう）
３　小柴胡湯（しょうさいことう）
４　小青竜湯（しょうせいりゅうとう）
５　桂枝湯（けいしとう）

問22

１～５の医薬品成分のうち、インフルエンザにかかっている１５歳未満の患者に対して使用を避ける必要がある成分はどれか。

１　ブロムヘキシン塩酸塩
２　トラネキサム酸
３　デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物
４　エテンザミド
５　アセトアミノフェン

問23

第１欄の記述は、鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力に関わらず使用でき、筋肉の急激な痙攣（けいれん）を伴う痛みのあるもののこむらがえり、筋肉の痙攣（けいれん）、腹痛、腰痛に適すとされる。ただし、症状があるときのみの服用にとどめ、連用は避ける。

第２欄

１　芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）
２　当帰四逆加呉茱萸生姜湯（とうきしぎゃくかごしゅゆしょうきょうとう）
３　釣藤散（ちょうとうさん）
４　呉茱萸湯（ごしゅゆとう）
５　疎経活血湯（そけいかっけつとう）

問24

解熱鎮痛薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　一般用医薬品の解熱鎮痛薬は、複数の有効成分が配合されている製品が多いため、併用すると、同じ成分又は同種の作用を持つ成分が重複して副作用が起こりやすくなるおそれがある。
２　アルコールの作用による胃粘膜の荒れが、イブプロフェンによる胃腸障害を増強するという事実が報告されている。
３　頭痛の症状が軽いうちに服用すると効果的であり、症状が現れないうちに予防的に使用するとよい。
４　発熱等によって消耗されやすいビタミンの補給を目的として、ビタミンC、ビタミンＢ１、ビタミンＢ２等が配合される場合がある。

問25

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ブロモバレリル尿素は、大量摂取による自殺が日本で社会問題になったため、現在、一般用医薬品に使用されていない。

b　抑肝散（よくかんさん）は、体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳（かん）症（神経過敏）、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。

c　基本的に、不眠に対して一般用医薬品で対処することが可能なのは、特段の基礎疾患がない人における、ストレス、疲労、時差ぼけ等の睡眠リズムの乱れが原因の一時的な不眠や寝つきが悪い場合である。

d　妊娠中にしばしば生じるホルモンのバランスの変化が原因の睡眠障害は、抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の適用対象である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問26

鎮咳（がい）去痰（たん）薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ノスカピンは、延髄の咳嗽（がいそう）中枢に作用し、咳（せき）を抑えることを目的として用いられる麻薬性鎮咳（がい）成分である。

b　ジプロフィリンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛（し）緩させ、気管支を拡張させる成分である。

c　グアイフェネシンは、抗ヒスタミン成分であり、気道粘膜での粘液分泌を抑制するため、痰（たん）の切れを良くしたい場合は併用に注意する。

d　クレゾールスルホン酸カリウムは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用を示す。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問27

咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる生薬成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　キョウニンは、バラ科のホンアンズ、アンズ等の種子を基原とする生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。
2　ナンテンジツは、メギ科のシロミナンテン（シロナンテン）又はナンテンの果実を基原とする生薬で、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳止めに効果があるとされる。
3　シャゼンソウは、ヒガンバナ科のヒガンバナ鱗茎を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
4　バクモンドウは、ユリ科のジャノヒゲの根の膨大部を基原とする生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。

問28

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
b　腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収を促進する。
c　胃液分泌亢進作用があり、胃酸過多の人や胃潰瘍のある人は服用を避ける必要がある。
d　カフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、成人と乳児では大きく異なる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問29

口腔咽喉薬及び含嗽薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬は、刺激が弱いため、口腔内に傷やひどいただれがある人でも使用することができる。

b　含嗽薬を調製した薬液を１０～２０mL 程度口に含み、顔を上向きにして咽頭の奥まで薬液が行き渡るようにガラガラを繰り返してから吐き出し、それを数回繰り返すのが効果的なうがいの仕方とされる。

c　桔梗湯は、体力に関わらず使用でき、喉が腫れて痛み、ときに咳が出るものの扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。

d　炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問30

口腔咽喉薬及び含嗽薬並びにその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　日本薬局方収載の複方ヨード・グリセリンは、グリセリンにヨウ化カリウム、ヨウ素、ハッカ水、液状フェノール等を加えたもので、喉の患部に塗布して殺菌・消毒に用いられる。

2　咽頭粘膜をひきしめる作用により炎症の寛解を促す効果を期待して、クラメリア科のクラメリア・トリアンドラ及びその同属植物の根を基原とする生薬であるミルラが用いられる。

3　噴射式の液剤は、薬液を咽頭部に十分行き渡らせるため、息を吸い込みながら使用することが望ましい。

4　響声破笛丸は、しわがれ声、咽喉不快に適すとされ、体力に関わらず使用できるため、胃腸が弱く下痢しやすい人にも向いているとされる。

問31

胃の薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
2　健胃薬に配合される生薬成分は、独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を抑制して胃の働きを活発にする作用があるとされる。
3　センブリは、リンドウ科のセンブリの開花期の全草を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
4　ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。

問32

腸の薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉(しゃ)薬は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としており、寝冷えによる下痢については適用対象でない。
b　トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされる。
c　腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として、炭酸カルシウムが配合されている場合がある。
d　木(もく)クレオソートは、過剰な腸管の（蠕(ぜん)動）運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌を促す作用がある。

1（a、b）　2（b、c）　3（c、d）　4（a、d）

問33

腸の薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　小腸を刺激して排便を促すことを目的として、センナやセンノシドが用いられる。

b　ビサコジルの内服薬では、胃内で分解されて効果が低下したり、胃粘膜に無用な刺激をもたらすのを避けるため、腸内で溶けるように錠剤がコーティング等されている製品（腸溶性製剤）が多い。

c　腸内容物の浸透圧を高めることで糞(ふん)便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すことを目的として、酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム等のマグネシウムを含む成分が配合されている場合がある。

d　桂枝加芍薬湯(けいしかしゃくやくとう)は、体力中等度以下で、腹部膨満感のあるもののしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問34

次の胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬の配合成分のうち、抗コリン成分<u>ではないもの</u>はどれか。

1　メチルベナクチジウム臭化物
2　ジサイクロミン塩酸塩
3　パパベリン塩酸塩
4　ブチルスコポラミン臭化物
5　メチルオクタトロピン臭化物

問35

浣(かん)腸薬又は駆虫薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	ソルビトール	―	浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す。
b	グリセリン	―	直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する。
c	サントニン	―	回虫の自発運動を抑える。
d	ピペラジンリン酸塩	―	アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯(ぎょう)虫の運動筋を麻痺(ひ)させる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問36　次の生薬成分のうち、強心成分<u>ではないもの</u>はどれか。

1　センソ
2　ジャコウ
3　シンジュ
4　ゴオウ
5　ロクジョウ

問37

コレステロールに関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）内には同じ字句が入る。

コレステロールは細胞の構成成分で、（　a　）や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質でもある等、生体に不可欠な物質である。コレステロールの産生及び代謝は、主として（　b　）で行われる。

コレステロールは水に溶け（　c　）物質であるため、血液中では血漿（しょう）タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。リポタンパク質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、そのうち低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）は、コレステロールを（　b　）から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。一方、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで（　b　）へと運ぶリポタンパク質である。

	a	b	c
1	膵（すい）液	腎臓	やすい
2	胆汁酸	肝臓	にくい
3	膵（すい）液	腎臓	にくい
4	胆汁酸	肝臓	やすい
5	膵（すい）液	肝臓	にくい

問38

次の成分のうち、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持ち、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で貧血用薬（鉄製剤）に配合される場合があるものはどれか。

1　硫酸コバルト
2　タンニン酸
3　硫酸マンガン
4　葉酸
5　硫酸銅

問39

循環器用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

b　イノシトールヘキサニコチネートは、パントテン酸が遊離し、そのパントテン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

c　ユビデカレノンは、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。別名コエンザイムQ１０とも呼ばれる。

d　オウバク（キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧搾して板状としたものを基原とする生薬）は、末梢の血行を促してうっ血を除く作用があるとされる。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問40

腸の薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	カルメロースナトリウム	—	腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞(ふん)便のかさを増すとともに糞(ふん)便を柔らかくする。
b	次硝酸ビスマス	—	腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂(れん)）ことにより、腸粘膜を保護する。
c	ビフィズス菌	—	腸内細菌のバランスを整える。
d	ヒマシ油	—	小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激し、腸内容物を急速に排除する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問41

痔(じ)及び痔(じ)疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　直腸粘膜には知覚神経が通っていないため、直腸粘膜にできた内痔(じ)核は自覚症状が少ないことが特徴である。

b　外用痔(じ)疾用薬は局所に適用されるものであるため、循環血流中には入らず、全身的な影響を生じることはない。

c　痔(じ)は、肛(こう)門部に過度の負担をかけることやストレス等により生じる。

d　ステロイド性抗炎症成分が配合された坐(ざ)剤及び注入軟膏(こう)では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問42

第１欄の記述は、泌尿器用薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少し、むくみがあり、ときに口渇があるものの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒(かゆ)み、排尿困難、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善（肩こり、頭重、耳鳴り）に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛、のぼせ、動悸(き)等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

第２欄

1　乙字湯(おつじとう)

2　竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)

3　猪苓湯(ちょれいとう)

4　牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)

5　桃核承気湯(とうかくじょうきとう)

問43

婦人薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌(がん)や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もあるため、継続して使用する場合には、医療機関を受診するよう促すべきである。
2　内服で用いられる婦人薬は、比較的作用が穏やかで、ある程度長期間使用することによって効果が得られるとされる。
3　妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
4　漢方処方製剤である温経湯(うんけいとう)は、構成生薬としてカンゾウを含まない。

問44

アレルギー用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
b　メチルエフェドリン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難の症状がある人、緑内障の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
c　皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸を含むカンゾウが用いられることがある。
d　パーキンソン病の治療のため医療機関でセレギリン塩酸塩が処方されて治療を受けている人が、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が促進されて、副作用が現れやすくなるおそれが高いため、使用を避ける必要がある。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問45

鼻炎用点鼻薬の配合成分とその配合目的との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	リドカイン塩酸塩	―	鼻粘膜の過敏性や痛み・痒(かゆ)みを抑える。
b	ケトチフェンフマル酸塩	―	鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
c	セチルピリジニウム塩化物	―	ヒスタミンの働きを抑える。
d	ナファゾリン塩酸塩	―	鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。

1（a、b）　2（b、c）　3（c、d）　4（a、d）

問46

点眼薬の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　1回使い切りタイプとして防腐剤を含まない製品では、ソフトコンタクトレンズ装着時にも使用できるものがある。

b　点眼の際に容器の先端が眼瞼(けん)（まぶた）や睫毛(しょう)（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となる。

c　1滴の薬液の量は約30μL であるのに対して、結膜嚢(のう)の容積は100μL 程度とされており、一度に何滴も点眼することで効果が増す。

d　点眼薬は、通常、無菌的に製造されているため、別の人が使用している点眼薬を共用することができる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問47

眼科用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ネオスチグミンメチル硫酸塩は、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼（けん）炎などの化膿（のう）性の症状の改善を目的として用いられる。

b　プラノプロフェンは、非ステロイド性抗炎症成分であり、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。

c　スルファメトキサゾールは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

d　コンドロイチン硫酸ナトリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問48

きず口等の殺菌消毒薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アクリノールは、黄色ブドウ球菌などの一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。

b　オキシドール（過酸化水素水）は、組織への浸透性は高いが刺激性はない。

c　エタノール（消毒用エタノール）は、皮膚刺激性が弱いため、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することができる。

d　ベンザルコニウム塩化物は、石けんとの混合によって殺菌消毒効果が低下する。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 49

外皮用薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ヒドロコルチゾンは、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹（しん）・皮膚炎の緩和を目的として用いられるものである。
2　ジクロフェナクナトリウムは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える作用を示し、筋肉痛や関節痛等に用いられる。
3　ケトプロフェンは、紫外線により、使用中又は使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症を起こすことがある。
4　イブプロフェンピコノールは、吹き出物に伴う皮膚の発赤や腫れを抑える作用はあるが、外用での鎮痛作用はほとんど期待されない。

問 50

外皮用薬のうち、抗菌作用及び抗真菌作用を有する配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　バシトラシンは、細菌のＤＮＡ合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
b　スルファジアジンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
c　オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
d　ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問51

ビタミンD及びビタミンD主薬製剤に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）には、同じ字句が入る。

ビタミンDは、腸管での（　a　）吸収及び尿細管での（　a　）再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

ビタミンD主薬製剤は（　b　）等が主薬として配合された製剤で、骨歯の発育不良、（　c　）の予防、また、妊娠・授乳期、発育期、老年期のビタミンDの補給に用いられる。

	a	b	c
1	カルシウム	エルゴカルシフェロール	夜盲症
2	マグネシウム	トコフェロール	くる病
3	マグネシウム	レチノール酢酸エステル	夜盲症
4	カルシウム	トコフェロール	くる病
5	カルシウム	エルゴカルシフェロール	くる病

問52

ビタミンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ビタミンＢ１は、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。

b　ビタミンＢ２は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

c　ビタミンＢ１２は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。

d　ビタミンCは、体内の脂質を酸化から守る作用を示し、メラニンの産生を抑える働きもあるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問53

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　グルクロノラクトンは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を抑える。
2　アスパラギン酸ナトリウムは、エネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
3　コンドロイチン硫酸ナトリウムは、関節痛、筋肉痛等の改善を促す作用を期待してビタミンＢ１等と組み合わせて配合されている場合がある。
4　ガンマ-オリザノールは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンＥ等と組み合わせて配合されている場合がある。

問54

第１欄の記述は、肥満症又は肥胖(はん)症に用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。構成生薬としてカンゾウを含む。

まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症が起こることが知られている。

第２欄

1　黄連解毒湯(おうれんげどくとう)
2　防已黄耆湯(ぼういおうぎとう)
3　防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)
4　大柴胡湯(だいさいことう)
5　清上防風湯(せいじょうぼうふうとう)

問55

生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　サンザシは、バラ科のサンザシ又はオオミサンザシの偽果をそのまま、又は縦切若しくは横切したものを基原とする生薬で、健胃、消化促進等の作用を期待して用いられる。

b　カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。

c　ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃等の作用を期待して用いられる。

d　レンギョウは、モクセイ科のレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問56

消毒薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

b　イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。

c　次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

d　ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問57

衛生害虫に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ハエ（イエバエ、センチニクバエ等）は、赤痢菌、チフス菌、コレラ菌等の病原菌を媒介する。
2　フェノトリンが配合されたシャンプーは、ヒトに寄生するシラミの医薬品による防除に用いられる。
3　ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、燻蒸剤による防除が有効である。
4　トコジラミに刺されると激しい痒痛を生じ、アレルギー反応による全身の発熱を起こすことがある。

問58

第１欄の記述は、衛生害虫の防除を目的とする殺虫剤の成分に関するものである。第１欄の作用機序を示す成分は第２欄のどれか。

第１欄

アセチルコリンエステラーゼの阻害によって殺虫作用を示すが、アセチルコリンエステラーゼとの結合は可逆的である。ピレスロイド系殺虫成分に抵抗性を示す害虫の駆除に用いられる。

一般に有機リン系殺虫成分に比べて毒性は低いが、高濃度又は多量に曝露して呼吸困難等の症状が出た場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

第２欄

1　プロポクスル
2　フェニトロチオン
3　フタルスリン
4　ディート
5　オルトジクロロベンゼン

問59

一般用検査薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　一般用検査薬は、薬局において取り扱うことが認められているが、店舗販売業において取り扱うことは認められていない。
2　全ての一般用検査薬は、劣化を防ぐために冷蔵庫内で保管する必要がある。
3　尿糖・尿タンパク検査薬は、尿糖又は尿タンパクを検出する部分に直接手で触れると、正確な検査結果が得られなくなることがある。
4　採尿の仕方として、尿糖検査に用いる尿は、中間尿ではなく出始めの尿を採取することが望ましい。

問60

妊娠及び妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　妊娠の初期（妊娠１２週まで）は、胎児の脳や内臓などの諸器官が形づくられる重要な時期であり、母体が摂取した物質等の影響を受けやすい時期でもある。
b　妊娠検査薬は、尿中のヒト絨（じゅう）毛性性腺刺激ホルモン（ｈＣＧ）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから１週目前後の尿中ｈＣＧ濃度を検出感度としている。
c　尿中ｈＣＧの検出反応は、ｈＣＧと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けることがない。
d　絨（じゅう）毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくてもｈＣＧが分泌され、検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正